

SAPPORO 教区 NEWS

第11号

2008年12月20日

発行：カトリック札幌司教区事務局広報部
〒060-0031 札幌市中央区北1条東6丁目10

Tel. 011-241-2785 / ホームページ：http://www.csd.or.jp

ペトロ岐部と187殉教者列福式特集

11月24日(月・祝) 正午から長崎県営野球場「ビッグNスタジアム」で列福ミサ

岡田武夫東京大司教(日本カトリック司教協議会会長)により188殉教者の列福要請が述べられ
教皇代理のサライバ枢機卿(ローマ教皇庁列聖省前長官)により188殉教者の列福が宣言される



列福荘厳ミサは白柳誠一枢機卿の司式で行われ、あわれみの賛歌が歌われたのち、日本カトリック司教協議会会長の岡田武夫東京大司教により、ペトロ岐部と一八七殉教者の列福の要請文がラテン語と日本語で述べられ、殉教の地の各司教から殉教者が紹介された後、教皇代理・サライバ枢機卿がラテン語で一八八殉教者の列福が宣言された。

続いて、教皇ベネディクト十六世の列福を宣言する書簡が読み上げられ、福者肖像画(油絵・長崎の聖画家・三牧樺の子氏作)が除幕。

岡田大司教より謝辞が述べられ、栄光の賛歌へと続いた。ミサの最後にサライバ教皇代理から列福のメッセージが述べられ、溝部脩司教(列聖列福特別司教委員会委員長)から謝辞が述べられ終了した。当日は、百人を超す取材陣と約三万人の信者が参列。

札幌教区からは、約一七〇名(他の巡礼団参加者を含めると二〇〇名以上)の人々が列福式に参列し、雨が降る中、喜びの時を待ちともに祝った。

また、列福式の様子は、インターネットで映像が全国に配信されて、同じ時間に、距離が離れていても、列福の感動と、日本にとつての新しいスタートを全国で祝うことが出来た。

札幌教区内では、北一条教会や月寒教会、藤女子大



学などで、映像が放映されとともに祝った。

今回の列福は、信徒の福者が多かったことが大きな意味を持っており、四〇〇年前の一八八殉教者の証しに倣い、現代に生きる私たちが、現代の教会が抱えている諸問題を解決していく大きな指針となったことだろう。

長い間準備に携わった準備委員会の人々をはじめ、札幌教区の方々に、心より感謝を述べたい。

ジヨゼ・サライバ枢機卿

ペトロ岐部と一八七殉教者の列福に対するメッセージを述べられた



愛すべき日本の地の皆様、ペトロ・カスイ岐部と一八七人の殉教者の列福式を主宰する名誉をいただきたいこのミサ聖祭の終わりに、参列しておられる皆様と、また教会の存在意義を深く感じるこの瞬間を遠くで分かち合っておられる皆様と、喜びを共にしたいと

思います。ベネディクト十六世教皇聖下が、代理として赴くことを委ねたこの意義深い出来事を、私は幸せに思い、皆様には教皇聖下からの使徒としての、また父としての祝福をお届けします。

ヨハネ・パウロ二世教皇聖下は一九八一年二月二十

六日、ここ長崎において、次のように語りました。「きょう、私はこの長崎の殉教者の丘、多くのキリスト信者が生命をいけにえとしてささげ、キリストに対する忠実のあかしをたてたこの丘を訪れる、数多くの巡礼者の一人になりたいと望んでいます。一九五七年二月五日、西坂で二十六人の聖殉教者が十字架のもつ大きな力の証しとなりました。実際、彼らは多くの殉教者の初穂となったのであり、彼らの後に続いた数多くの殉教者は、自分たちの苦しみと死によってこの土地を更に聖なる土地としたのでした。きょう、私は二十六聖殉教者とそのあとに続いた多くの殉教者に感謝をささげるためここに参りました。」

本日の列福式をもって、教皇聖下の預言者的なこのことばは、ほぼ実現を見たということが出来ます。四世紀を経て、一八八八もの偉大な信者に光が当てられました。その人びとはすべて、キリストへの信仰を、いのちをかけてあかしする賜物を受けたのです。「命の書」(フィリピの信徒への手紙 四章三節)にひそかに記されていたその名前

は、今日、福者の列に加えられました。年齢と環境が異なり、場所と時間が違っても、多くの殉教者が示している忠実さは、いのちをかけて信仰をあかしすることが、人間が持つ自由の最高の表現、最大の愛の行いであり、それは教会の教えが生きていることのしるしです。聖アウグスティヌスは「迫害や拷問が殉教を生むのではなく、キリストこそが、あかしの理由であり動機なのである」(詩編注解三十四、二、十三・六十八、十九・四、四一・八五、九)と書き残しています。

ベネディクト十六世教皇聖下は「キリスト教における、神と人々への、迫害する者たちも含めた人びとに向かう愛以外の何物でもない」という、この殉教者の大きな特徴を、常に明らかにする必要があります」と語ります。(二〇〇七年十二月二十六日 お告げの祈り)

未来に向かって不安を感じている私たちの世界において、「その衣を小羊の血で洗って白くした」(ヨハネの黙示録 七章十四節)人びとの模範は、信頼に足る出発点であり、信仰の公のあかしです。それは私たちが理想としていることを証言し、神の子となった人びとの間の、親しい交わりを深めるものだからです。

主イエスの「これを私の記念として行いなさい」ということばによって毎日新たにされている教会は、同時に、「行つて人びとに福音を伝えなさい」というキリストを宣教する教会でもあり、それはまた、血が流されてできる殉教の教会でもあります。それゆえ、私たちの本日の集いは、信仰と教会の交わりを味わう喜ばしい体験のひとつです。それは、たくさんの男性と女性の信仰、若者と子供の、独身者と家族の、その多くが信徒であった、キリストへの信仰を血を流してでも言い表そうとした人びとの信仰によって築かれた教会です。こうした理由から、回勅『真理の輝き』は「殉教は教会の聖性のきわだったしるし」であり、それは信仰の「荘厳な宣言



であり、宣教者としての自己表明」(九十三項参照)であることを強調したのである。

殉教者の一団によってこのように養われ、教会の祭壇で榮譽を称えられた、日本における神の民の優れた証言は、それゆえ、長い期間にわたって働き続ける原動力であり、日本の教会共同体のこれからと、日本全体の未来のための希望の泉となるものです。

ペトロ岐部と一八七人の殉教者の列福の式典に当たり、殉教者の女王である聖母マリアが、その取次ぎに信頼し、愛をもって、いつの日にも、福音のために生涯を捧げ、死んで復活したキリストを証する恵みを願う人びとを、すべて守ってくださいますように。

白柳枢機卿説教

「恐れずに、一緒に進もう」



[3]

皆さん、私達はいま、「ペトロ岐部神父と一八七人日本殉教者」が祝福され、大きな喜びと深い感動を味わっています。ところで私たちは殉教者、殉教者と、いとも簡単に呼んでいいませんが、一体、どのような人を殉教者と呼ぶのか、まず、その言葉の意味をはっきりさせることからお話を始めたいと思います。

皆さん、私達はいま、「ペトロ岐部神父と一八七人日本殉教者」が祝福され、大きな喜びと深い感動を味わっています。ところで私たちは殉教者、殉教者と、いとも簡単に呼んでいいませんが、一体、どのような人を殉教者と呼ぶのか、まず、その言葉の意味をはっきりさせることからお話を始めたいと思います。

皆さん、私達はいま、「ペトロ岐部神父と一八七人日本殉教者」が祝福され、大きな喜びと深い感動を味わっています。ところで私たちは殉教者、殉教者と、いとも簡単に呼んでいいませんが、一体、どのような人を殉教者と呼ぶのか、まず、その言葉の意味をはっきりさせることからお話を始めたいと思います。

皆さん、私達はいま、「ペトロ岐部神父と一八七人日本殉教者」が祝福され、大きな喜びと深い感動を味わっています。ところで私たちは殉教者、殉教者と、いとも簡単に呼んでいいませんが、一体、どのような人を殉教者と呼ぶのか、まず、その言葉の意味をはっきりさせることからお話を始めたいと思います。

皆さん、私達はいま、「ペトロ岐部神父と一八七人日本殉教者」が祝福され、大きな喜びと深い感動を味わっています。ところで私たちは殉教者、殉教者と、いとも簡単に呼んでいいませんが、一体、どのような人を殉教者と呼ぶのか、まず、その言葉の意味をはっきりさせることからお話を始めたいと思います。

皆さん、私達はいま、「ペトロ岐部神父と一八七人日本殉教者」が祝福され、大きな喜びと深い感動を味わっています。ところで私たちは殉教者、殉教者と、いとも簡単に呼んでいいませんが、一体、どのような人を殉教者と呼ぶのか、まず、その言葉の意味をはっきりさせることからお話を始めたいと思います。

「忠実で真実な証人」(黙示録三章十四)であるキリストに倣って教会と世界に血の証をした殉教者が受けた試練と栄光を讃えています。

教会の歴史をみますと、初代教会から現在に至るまで、世界の各地にキリストに倣ってこのように、血を流して神様を証した殉教者は枚挙に暇がありません。

日本における、キリスト教の歴史は一五四九年聖フランシスコ・ザビエルの来日によって始まりました。彼らは風俗、習慣、言語などの違いにより大きな困難に遭遇しましたが、宣教師たちの熱意と日本人信徒の協力により、困難の中にあっても、いちじは約三万人の信徒が数えられたといわれています。当時の日本社会は大名たちが群雄割拠していた時代であり、宣教師たちが自由に働けるか否かは、その地の権力者である大名たちによって決められていました。快く受け入れた大名、条件つきで受け入れた大名、拒絶した大名などありました。フランシスコ・ザビエルが当時の都、京都を訪れ天皇と佛教

の最高学府比叡山に敬意を表し、日本全国への宣教許可を求めたために、面会を願ったところ、その面会は断られ、失望のうちに京を離れたことは、よく知られていることです。

信長の後を継いだ秀吉の時代にはいると日本社会がほぼ統一に向かいはじめ、キリスト教に対する態度が変わってきました。

一五八七年秀吉は宣教師たちの追放を命ずる「伴天蓮追放令」を出し、地域的に温度差はありましたが、各地で迫害が始まりました。まずキリスト教を述べ伝える宣教師とその身近な協力者が迫害の対象となりましたが、次第に地域も対象も広げられ、秀吉の追放令が出て、十年目の一五九七年にフランシスコ会のペトロ・パプチスタ神父、イエズス会のパウロ三木神父をはじめとする聖職者九人と信徒十七人の所謂二十六聖人の殉教がありました。

徳川の時代にはいり、家康、秀忠、家光と代を重ねるに従い迫害は熾烈を極め、殉教者の数が増大していきました。

キリシタン研究家でもある溝部司教によりますと名

前、殉教の日時(にちじ)、場所などが正確にわかって

いる殉教者だけでも五、五〇〇人をくだらないそうです。また確かに殉教したけれど、名前のはっきりのわからないものは約二万人に

及ぶといわれています。(これらのことは当時の唯一の司教セルケイラを初め宣教師たちのローマ教皇、また修道会本部に送られた報告書、日本の各地に残されている歴史資料(古文書)などによって明らかにされています。因みに外国に送る手紙、報告書などは当時の状況下、確実に届くように、一度に三部作成され、異なる舟で送られたため、ローマの教皇庁資料室には同じ文書が二通あるのも、あるそうです)。

これらの殉教者のうちすでに二十六人の聖殉教者、二〇五殉教者、さらに十六人のドミニコ会関係者(司祭、修道者、第三会員、信徒)がローマ教皇様より公に福者として宣言されています。

今日新たにペトロ岐部神父ほか一八七人の殉教者が福者として宣言されました。今、ひとりずつ紹介することはできませんので、

今回列福された福者に共通する特徴について、お話しします。

①今回は日本各地の殉教者で、時代を超えて各地で尊敬されてきた人たちです。

北から申しますと米沢の五十三人、江戸二人(但しそのうちのひとり、ペトロ岐部神父は大分県国東半島の出身で、江戸で殉教した人です) そのほか京都の五

十二人、大阪、広島、山口、萩、小倉、大分、熊本、有馬、生月、島原、雲仙、長崎西坂、天草、八代、薩摩(鹿児島)で殉教した方々です。

②この一八八人殉教者は、全員日本人で、信徒一八三人、とその信徒たちに徹底的に仕えた代表的な四人の司祭、ひとりの修道者です

③また性別、年齢、職業などをあげますと。男性一二人、女性六十七人、年齢では最高年齢者は米沢の武士、ルイス甚右衛門の八十才から一才の子供まで含まれて言います。なんと一歳から四歳までの子供が二十

九人もいたのです。そのほかの人は、殆ど働き盛りの人でした。職業としては上級武士、下級武士とその家

来、一般庶民、農民などと

その妻、子供、奉公人のような方々で、健康人だけではなく、身体障害者二人も含まれていました。

このたびの福者のなかで目立つことは、一家揃っての殉教です。主人、妻、子供たちというケースが大変多いことです。これは司祭たちによる熱心な信徒養成、また、家族一体となつての信仰の実践、近辺の信徒の家庭が一緒になつて小さな教会の役割を果たしたこと、特に迫害下にあつては「家庭教会」として、信徒たちが役割分担して子供たちに教理を教えたり、一緒に祈つたりして信仰を深め、神様の特別な恵みで殉教をも受け入れることができたのでした。同時に忘れることのできないのは、司祭たちが決死の覚悟で頻繁に密かに信徒の家庭を訪れ、ミサ、赦しの秘跡を授け、励まし続けたことです。一家そろって殉教した家族は、例えば、京都のヨハネ橋本、妻テクラ、五人の子供たち。八代のシモン竹田、妻アグネス、四人の子供、シモン竹田の母。熊本の小笠原玄也、妻マリア、息子六人、娘三人奉公人四人。もう一つの際立っている

ことは、日本の迫害の歴史が大変長期にわたつたと、またその残酷さ、弾圧の徹底さなど、世界に類のないものがありました。

このたび列福された殉教者は一六〇三年の熊本、八代の殉教から、一六三九年江戸の殉教までの三十六年間に殉教した方々の一部です。しかし徹底的弾圧、キリスト教の壊滅を期して、踏み絵を踏ませて信仰を調べる絵踏み、五人組制度による信徒の詮索、懸賞金をかけての捕獲、キリシタンの禁札、役人のまえで毎年自分の宗教を申告する制度・宗門改め、などによる弾圧は、大変長く続けられました。宗門改めは鎖国が始まってからも二二二年間、一八六四年まで、また禁札は明治時代まで続けられました。

さて、日本における殉教の歴史をみてきた私たちは、最期にこれらの殉教者たちが現在の私達に何を伝えたいのか、彼らの列福にはどんなメッセージがあるのか、一緒に考えてみましょう。

①聖パウロはローマ人への手紙の中で述べています。「誰がキリストの愛から私たちを引き離すことができましょうか。艱難か、苦しみか、迫害か、飢えか、裸か、危険か、死か。然しこれらすべてのことにおいて、私たちは、私たちが愛してくださった方によって輝かしい勝利を収めています。死も、命も、支配する者も私たちを主キリスト・イエスによって示された神の愛から引き離すことはできないのです」。

日本の殉教者も聖パウロと同じことを叫び、神様の恵みに信頼して信仰に生きることが怖れるなど叫び続けています。

②家族が全員一緒に殉教したケースが多いと申しあげましたが、家族は社会を構成する最小の基本的共同体であります。すべての家庭がしっかりとすれば、社会もしっかりとしたものになります。殉教した家族は信仰、希望、愛で結ばれ、共通の価値観を持ち、何が起きても動ぜず、困難に遭遇すれば互いに助けあい、励ましあつていました。現代の社会では老若男女、また生きる環境などの影響を受け、健全な家庭、一つに結ばれた家庭を見出すのは大変難しいと良く言われます。まして死よりも強い愛で結ばれた家庭は私たちの鑑みであり、その家庭には生きる喜び、生きがい、充足観が満ちております。このような家庭をつくるようにと殉教者は私たちに強く呼びかけていることでしょう。そのためには殉教者に倣い、家庭で皆そろって神の言葉に親しみ、ともに祈ることが必要でしょう。

③キリシタン時代の信徒は近辺の方々と暖かい交わりを大切にしておりました。例えば米沢では殉教の噂をきいた近隣の人がお上の人、責任者を訪れ、キリシタンの立派な生活を話し、迫害しないよう頼み込んだことが頻繁にありました。またお上も、それを充分知っていて、捕獲、投獄をせず、処刑の日になって致し方なく、連行したことがありま

ました。また近所に住む処刑の役を命じられた人が、処刑の前夜、キリシタンの家を訪れ、酒を飲み交わし、赦しを願つたという話もあります。使徒言行録は初代教会について述べています(二章四十二の四十七)。「一同はひたすら使徒たちの教を守り、兄弟的交わりを大切にし、パンを手で裂き、祈りをしていました。信じ人たちは皆ひとつとなり(すべてのものを共有し、財産や持ち物を売り、それぞれの必要に応じて、みんなでそれを分配していった)彼らはすべての民に好意をもたれた。主は救われる人々を信者の数に加えてくださった」。私たちの教会、信仰共同体が神の愛の目に見える印となるよう、殉教者は強く訴えています。

④殉教者は呼びかけています。毎年三万人以上の自殺者が出る日本の社会に呼びかけています。生きるとはどういうことか、死ぬとはどうゆうことか、人間は何のために生きるのか、人生の目的、意義とは何か、苦しみに意味があるのかなどの人生の根本問題について深く考えるよう求めてい

ます。信仰の自由を否定され、殺された殉教者は叫んでいます。神の似姿に創られた人間の尊厳性、また人間が持つ固有の精神的能力、考え、判断し表現する自由などの重要性、それに反するあらゆることを避けることを強く訴えています。なかでも人間の生きる権利が胎児のときから死にいたるまで大切にされること。武器の製造、売買、それを使つての殺人行為である戦争。極度の貧富の差により非人間的生活を余儀なくされている者たちへの配慮など、すべての人が大切にされ、尊敬され、人間らしく生きられる世界となるよう祈り、活動することを求めているに違いありません。

さあ、皆さん、怖れずに歩み、一緒になつて進みましょう、怖れるな、怖れるなと神様がそして殉教者が呼びかけています。皆さん怖れるな。



ペトロ岐部と一八七殉教者 列福に 向けての三司教からのメッセージ

ペトロ岐部と一八七殉教者列福に寄せて



日本カトリック司教協議会
会長 ペトロ
岡田 武夫 大司教

この度長崎で史上初めて、ペトロ岐部と一八七殉教者の列福式が行われます。これは極めて意義深いことであり、この機会に日本に新しい神の息吹が吹き、日本の福音化が進展することを切に望み、神の恵みを切に祈ります。

日本は殉教者の国であり、日本二十六聖人殉教者をはじめとする多くの殉教者の聖人・福者が与えられました。しかし、今回は日本の教会の主導による、日本の教会のために列福運動

による実りです。しかも一八八人全員が日本人で、その中の一八三人が信徒です。ここに今回の列福の特色があります。

わたしたちは四〇〇年前の一八八人の殉教者の生き方から、今日の教会として学ぶべき点が多々あると思います。現代は価値の多元化と相対主義の時代といつてよいのではないのでしょうか。人々は信ずべき明確な軸足を失っています。課題

ペトロ岐部と一八七殉教者列福に寄せて



列福式実行委員会
委員長 高見 三明 大司教

は、いかに他者を否定せず、排撃せずに自分の信仰と信念を貫くか、ということだと思います。この点、殉教者の信仰告白は明瞭明確であります。

現代は人間の絆が弱く、そして薄い時代です。課題は、いかに互いの自由と意思を尊重しながら、他者を自分より優れたものとして、かけがえないものと考えて大切にいかかわっていくのか、ということだと思います。殉教者は非暴力を貫きました。現代は個の存在が薄く、自分の存在の意味に疑問を

列福式は慶事です。神の恵みです。しかし、列福される殉教者たちは、公に祝われることのない何千何万という無名の殉教者たちの代表であると考えたいと思います。一方、日本の為政者たちがキリスト教を禁じ

持つ人が少なくありません。現代の「荒れ野」において、人生の孤独と意味の喪失に苦しむ人々に癒しと励まし、光と力となるネットワークを築くことこそ、教会の重要な課題であると思います。四〇〇年前、日本には司祭不在の共同体が立派に存在していました。

現代、これらの課題を乗り切るために、一八八殉教者の生き方は大きな力、支え、導きとなると信じます。



た理由の中には、キリスト者自身に猛省をせまる点がいくつもあったと思われると思います。たとえば、当時、宣教方法に関する見解の違いなどによる宣教師たち同志の争い、神社仏閣を破壊したり焼き払ったりするという暴力的な行為などが、為政者や他の宗教の人々にキリスト教に対する偏見や誤解を生じさせる要因ともなりました。現代を生きるわたしたちキリスト者は、信教

ペトロ岐部と一八七殉教者列福に寄せて



列聖列福特別司教委員会
委員長 溝部 脩 司教

この列福運動に当初からかわり、最後の段階でその実現にまでこぎつけた当



の自由が完全に保証されずすべての人の尊厳と人権が大切にされる平和な人類社会の実現を目ざすだけでなく、キリストの福音を深く理解し真に証しする生き方をもっと徹底して追及していく必要があります。殉教者の生き方に学ぶことが、キリストの福音の真髄をさとり生きることへとつながるようさらに祈り努めて参りましょう。

事者として、今回の列福はとても嬉しく、光栄に思っています。何よりも、日本教会を意識させる大きな運動になったことがとても嬉しいことです。実を申し上げますと、この運動にかかわっていても、ごく最近まで本当に実現するとは思っていませんでした。漸く最後の数年間に至ってこぎつけるという実感に到ったに過ぎません。しかし、考えてみるとこれが実現するにはそれなりの時間が必要だったということなのです。式があればよいというものではなく、式に到るまでの時間が必要だったのです。私たちはこれを準備しながら、自分を変えられていったのを実感しています。同様に殉教者のことを語ることを通しながら、日本教会の活性化を切に願ってきたのです。今お願いしたいことは、今回の列福式を単なる儀式に終わらせないで、祭典を出発点として日本教会の刷新に向けて歩みだすことです。

写真で辿る列福式

11月23日(日) 前夜祭



長崎・城山教会にて、キリストを王とする家族のために命を捧げたトマス次兵衛神父様（聖アウグスチノ修道会）への感謝のミサを奉げる人々。



11月24日(月) 列福式荘厳ミサ

11:30からの殉教者紹介VTRが放映されたあと、長崎県営野球場で正午から、雨模様の中ではありますが、厳かに188殉教者の列福の式典が始まった。

雨の中入場する
長蛇の司祭団



安置された殉教者の聖遺物

多くの参列者が見守る中、殉教者の聖遺物を先頭に、司祭団・司教団・白柳枢機卿・サライバ教皇代理が入場する。



開祭：入場



入場する司教団と地主司教



司教団の最後に入場する
白柳枢機卿と
教皇代理のサライバ枢機卿



列福の儀とことばの典礼



列福宣言要請のあと、各司教からの殉教者略歴紹介が行われ、
教皇代理から列福が宣言される



列福宣言要請する
岡田大司教（日本司教協議会会長）

第一朗読、第二朗読、福音の朗読が行われ、白柳枢機卿の説教（3頁の内容）があり、
列福者を出した教区からの共同祈願が行われた。



列福宣言のあと、教皇書簡が読み
上げられ、記念の肖像画の除幕と
続いた。



説教する白柳枢機卿と司教団

感謝の典礼



青少年らによる奉納行列に始まった感謝の典礼



聖体拝領する司祭団



聖体を授ける上杉神父



札幌教区から参加した人々

11月25日(火)中町教会

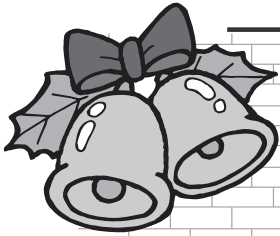
教皇代理メッセージ(2頁)の後に謝辞を述べる溝部司教(列聖列福司教委員会委員長) 参列者から拍手が起きた。



退場時、挨拶と祝福をする、溝部司教・白柳枢機卿・サライバ教皇代理



朝のミサを奉げる地主司教と教区からの巡礼者たち。ハワイからの巡礼夫婦も。



主のご降誕のお慶びを申し上げます



クリスマスプレゼント

司祭・加藤 鐵男

Xマスのミサの入堂で歌われる「しずけき」の原詩は、ある司祭が、町外れの家で生まれたばかりの子供に洗礼を授けに行った帰りに目にした雪景色の余りの美しさに感動して出来上がった詩と言われています。

このエピソードを思い出さずからでしょうか、私にとってXマスと言えば最初の子供が誕生した時のことが思い浮かびます。その子の誕生は三月ですから直接的にXマスと関係は、ないのです。予定日より一週間以上も遅れて、母親の誕生日の一日過ぎた日に帝王切開出産で生まれてきました。

「男子は出産に右往左往するべきではない」と粋がっていた私は、すぐにでも跳んで行きたいのを我慢して、十九時の退社後に産院に駆けつけると病室で待つ家内の祖母に現況を聞く暇もなく、産室から「生ま

れましたよ」との看護士の声が届くや否や、嬉々として駆けて行ったと同室の妊産婦が、後日家内に話していたそうです。元気な女の子の誕生でした。

病室に戻った家内に「苦勞さん」と声を掛け暫くして産院を後にしたのが、九時過ぎでした。

産院の玄関を出るとまるで音が止まったかのようになり、静かに粉雪が、舞い降りていました。薄っすらと降り積もった雪は、地上のあらゆる穢れを覆い隠すかのように地面を真っ白に雪化粧していました。

そのとき、私の脳裏に思い浮かんだのは、「ああ、子供はこのように真っ白な汚れない心を持ってうまれてくるのだ。今夜、神様は私にそれを見せてくれたんだ」と言うことでした。

また、キリスト教にも触れず、神様の事なんか何も知らない私に、その頃から神様の御業が働いていたのでしょうか、とても不思議な体験でした。

私は、二人の子供に恵まれました、「子はかすがい」

と言います。後年になって二人の子ども達が「かすがい」どころか、私にとっての救世主となってくれたのでした。

家内を病気で亡くし、何もかもが虚しく思えたときに、この子ども達のために「嘆いてばかりもいられない、しっかりと生きていかなくては」と生きるための活力を与えてくれたのが、二人の子供達でした。子ども達のお陰で現在の私が在ると言えます。子供達が、私に何かを言ってくれた分けてでもないし、手伝いをしてくれてわけでもなく、ただただ、手の掛かる存在でしかなかったのに、私にとって生きる糧となってくれたのです。人の命の大切さを家内の死で知り、子ども達の命が、私に活力を与えてくれる。このことを悟らせてくださる神の大きな愛に触れた時だったと今になって私は、思うのです。

Xマスは、イエス・キリストの降誕を祝います。私たちの救い主となってくださる御方がお生まれになったことを祝う日です。

その御方のお生まれになったところは、貧しい家畜小屋で、ゆりかごは飼いの葉桶でした。貧しさの極みの中で誕生でした。「裸でその母の胎を出た。裸でそこに帰ろう」(ヨブ記一章二一節)、所詮、人は、何も持って帰ることなど出来ないのです。キリストの誕生の出来事は、まずそのことを、私たちに教えてくれます。

イエスは、自分の身に起こることを察知しオリブ山で、苦しみもだえ祈ります。「父よ、御心なら、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願いではなく、御心のままに行なってください。」(ルカ二十二章四十二節)と御父に従順を貫いた御子でした。

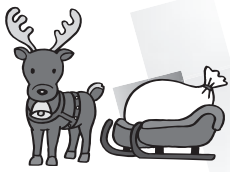
両肩に背負いきれないほどの大きな荷物を背負ってキリストは、十字架につけられました。通りがかりの人々から「神の子なら、自分を救ってみろ。そして十字架から降りて来い。」(マタイ二十七章四十節)の罵声にも甘んじて、私たちの

罪のためにご自分の体を御捧げになりました。

御父の無限の愛に満たされたキリストは、その受けた愛を私たち一人ひとりに万遍無く降り注ぎ私たちの苦しみ、悲しみ、悩みに応えてくれる豊かさを持っています。私達は、それを受ける資格がないとか、信仰心が薄い者だ、と卑下する必要はなく、ただ、素直にそれを戴く恵みに与ればよいのです。私達は、神様の豊かさに感謝を捧げ、一人ひとりが喜びをもって、キリストの誕生を祝うクリスマスとミサに与りたいものです。

さて、今年の降誕祭は、静かなホワイトクリスマスになるのでしょうか？
皆さん「メリー・クリスマス」。





クリスマスと 新年のミサ時間



| 旭川地区 | | | |
|--------|------------------------|---------------|---------------|
| 教会名 | ミサ時間 | | |
| | 12月24日 | 12月25日 | 1月1日 |
| 旭川五条教会 | 19:00 | 10:00 | 10:00 |
| 旭川六条教会 | 五条で合同 | 五条で合同 | 五条で合同 |
| 大町教会 | 19:00 | 五条で合同 | 五条で合同 |
| 神居教会 | 大町で合同 | 五条で合同 | 五条で合同 |
| 名寄教会 | 19:00 | 10:00 | — |
| 士別教会 | — | 14:00 | — |
| 留萌教会 | 19:00 | 0:00 10:00 | 0:00 10:00 |
| 羽幌教会 | 17:00 | — | 17:00 |
| 美唄教会 | 19:00 | 10:00 | 0:00 10:00 |
| 砂川教会 | 19:00 (18:30~VTR放映) | 9:00 | 9:00 |
| 滝川教会 | 19:00 | 19:00 | 9:30 |
| 富良野教会 | 18:30 | 10:00 | 10:00 |
| 稚内教会 | — | 19:00 | 10:00 |
| 枝幸教会 | 18:30 | — | 17:00 |

| 札幌地区 | | | |
|--------|--------|------------------------|------------------------|
| 教会名 | ミサ時間 | | |
| | 12月24日 | 12月25日 | 1月1日 |
| 北1条教会 | 19:00 | 10:00 | 10:00 |
| 北11条教会 | 20:00 | 7:00 11:00 18:30 | 0:00 11:00 18:30 |
| 北26条教会 | 20:00 | 11:00 | 11:00 |
| 円山教会 | 20:00 | 10:00 | 11:00 |
| 山鼻教会 | 19:00 | 10:00 | 11:00 |
| 真駒内教会 | 20:00 | 10:00 | 13:00 |
| 月寒教会 | 19:00 | 10:00 | 10:00 |
| 小野幌教会 | 19:00 | 10:00 | 10:00 |
| 手稲教会 | 19:30 | 10:00 | 11:00 |
| 住ノ江教会 | 20:00 | — | 10:00 |
| 富岡教会 | 18:00 | 9:30 | — |
| 江別教会 | 20:00 | 13:00 | 11:30 |
| 大麻教会 | 18:00 | 10:00 | 10:00 |
| 岩見沢教会 | 19:00 | 10:00 | 11:00 |
| 北広島教会 | 19:00 | 10:00 | 10:00 |
| 千歳教会 | 18:30 | 10:10 | 10:00 |
| 恵庭教会 | 18:00 | 9:00 | 9:00 |
| 花川教会 | 19:00 | — | 11:00 |
| 新田教会 | 19:00 | 10:00 | 9:45 |
| 倶知安教会 | 19:00 | — | 11:00(集) |

| 苫小牧地区 | | | |
|-------|---------------------------|--------|--------------------------|
| 教会名 | ミサ時間 | | |
| | 12月24日 | 12月25日 | 1月1日 |
| 苫小牧教会 | 19:00 | 10:00 | 10:00 |
| 室蘭教会 | 19:00 | 9:30 | 11:00 |
| 東室蘭教会 | 19:00 | 9:30 | 10:00 |
| 伊達教会 | 19:00 | 9:30 | 9:30 |
| 登別教会 | 18:00 | 10:00 | 10:00 |
| 静内教会 | 降誕ミサ 12/20(土) 10:00 | | 新年ミサ 1/10(土) 10:00 |

| 北見地区 | | | |
|------|--------|--------|--------|
| 教会名 | ミサ時間 | | |
| | 12月23日 | 12月24日 | 12月25日 |
| 北見教会 | — | 19:00 | 10:00 |
| 網走教会 | — | 19:00 | 10:00 |
| 美幌教会 | — | — | 18:30 |
| 遠軽教会 | — | 19:00 | — |
| 紋別教会 | 17:00 | — | — |

| 釧路地区 | | | |
|-------|--------------------------------|--------|--------------------------------------|
| 教会名 | ミサ時間 | | |
| | 12月24日 | 12月25日 | 1月1日 |
| 釧路教会 | 18:30 | 10:30 | 11:00 |
| 新川教会 | 19:00 | 10:30 | 11:00 |
| 帯広教会 | 19:00 (英語ミサ 12/23 17:00) | 10:00 | (12/31) 10:00 (1/1) 0:00 11:00 |
| 柏林台教会 | 19:00 | 10:00 | 11:00 |
| 本別教会 | 12/22(月) | 13:00 | — |
| 池田教会 | — | 19:00 | — |
| 中標津教会 | 20:00 | 11:00 | 11:00 |
| 厚岸教会 | 12/28(日) | 10:00 | — |
| 根室教会 | 18:00 | 8:30 | 11:00 |

| 函館地区 | | | |
|-------|--------|--------|-------|
| 教会名 | ミサ時間 | | |
| | 12月24日 | 12月25日 | 1月1日 |
| 元町教会 | 19:00 | 10:30 | 10:30 |
| 宮前町教会 | 19:00 | 10:00 | 10:00 |
| 湯川教会 | 19:00 | 10:00 | 10:00 |
| 江差教会 | — | 15:00 | — |
| 当別教会 | 19:00 | 9:00 | 9:30 |
| 八雲教会 | — | 18:00 | — |